

横浜市栄区セーフコミュニティ

傷害サーベイランス分科会

座長 田高 悦子



傷害サーベイランス分科会の 役割と全体の流れ

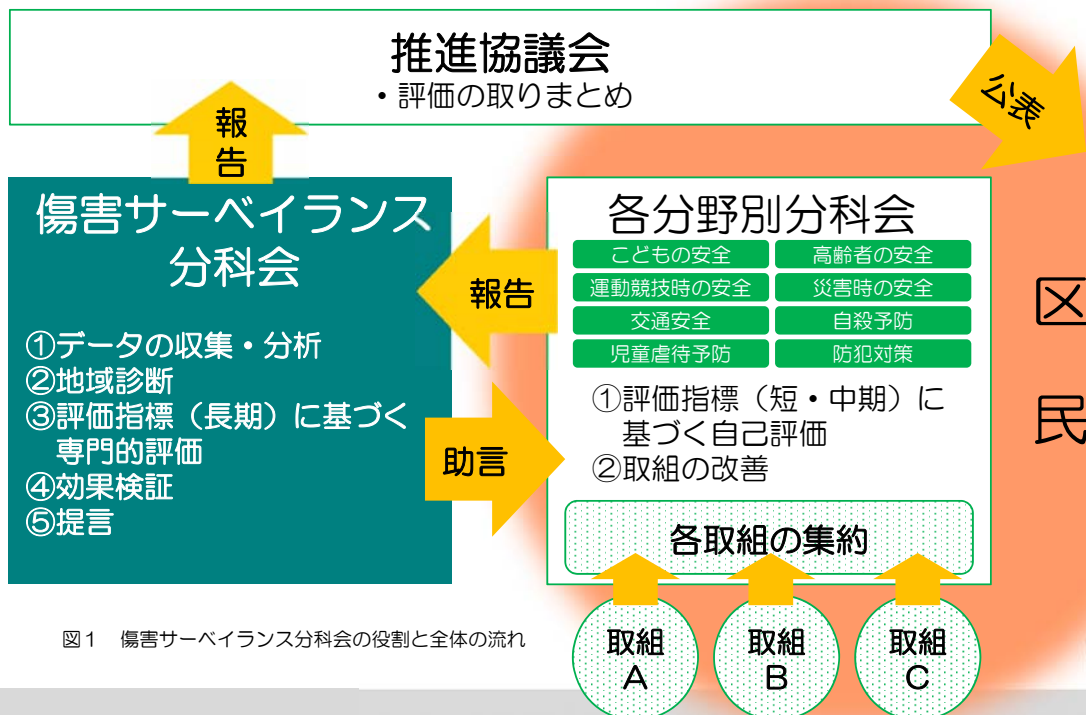


図1 傷害サーベイランス分科会の役割と全体の流れ



傷害サーベイランス分科会の変遷

- 2012～2016年度
：アウトカムに対する評価に重点を置いたドバイザリーチームのみの構成
- 2017年度～
：データ収集・分析の精度向上のためデータを取り扱う実務チームを再結成

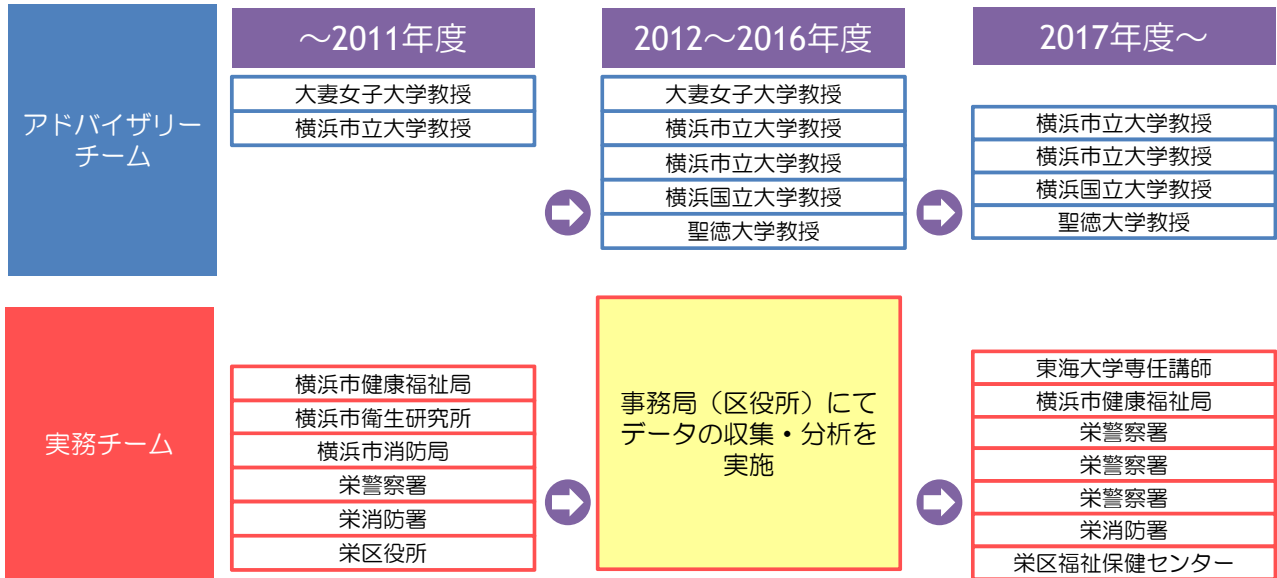


図2 サーベイランス分科会 委員構成の変遷

傷害サーベイランス分科会名簿

表1 傷害サーベイランス分科会名簿

No.	チーム	構成	所属	名前
1	アドバイザーチーム	学識経験者	横浜市立大学大学院医学研究科 医学部地域看護学教室教授	田高 悦子
2		学識経験者	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授	大原 一興
3		学識経験者	横浜市立大学学術院医学群教授 横浜市立大学保健管理センター長	小田原 俊成
4		学識経験者	聖徳大学社会福祉学科教授	豊田 宗裕
5	実務チーム	学識経験者	東海大学医学部基盤診療学系法医学専任講師	垣内 康宏
6		行政機関等	横浜市健康福祉局健康安全部医務担当部長	木村 博和
7		行政機関等	栄消防署警防第一課救急担当課長	山崎 大輔
8		行政機関等	栄警察署交通課長（アドバイザー）	近藤 秀政
9		行政機関等	栄警察署交通総務課長	平間 健一
10		行政機関等	栄警察署生活安全課長（アドバイザー）	田中 豊
11		行政機関等	栄区福祉保健センター長	近藤 政代
12		事務局	栄区区政推進課 課長	雨堤 崇
13		事務局	栄区区政推進課 企画調整係長	高橋 千春
14	事務局	栄区区政推進課 企画調整係	石田 梓	

これまでの経過と現在の活動

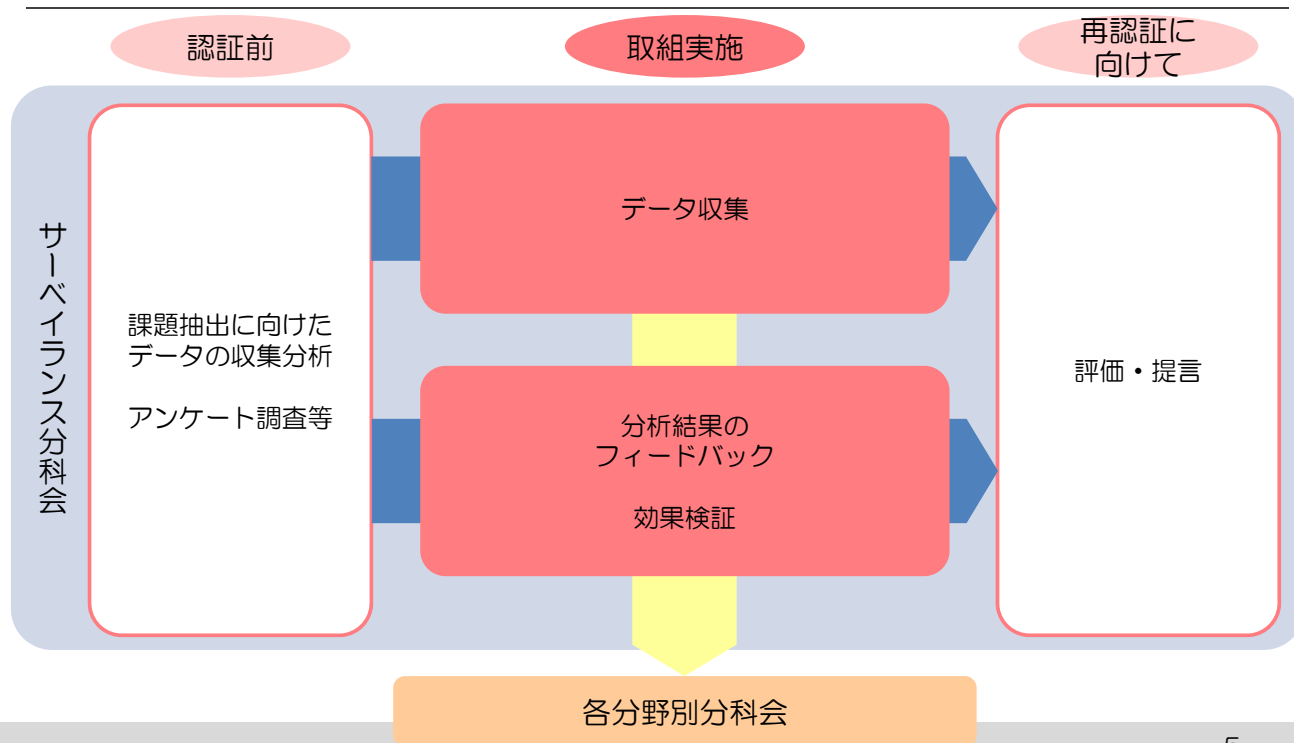


図3 サーベイランス分科会のこれまでの経過と現在の活動

5

傷害サーベイランス分科会

- ①データの収集・分析
- ②地域診断
- ③評価指標に基づく専門的評価
- ④効果検証
- ⑤提言

6

基本データ

No.	名称	実施主体	頻度	調査の内容		
				死亡	傷害	備考
1	人口動態統計	国	毎年	○		交通事故、転倒・転落、溺死・溺水、窒息、火、中毒、自殺、他殺
2	救急搬送記録 ※疾病（事故種別：急病及び転院搬送）を除く	横浜市	毎年	○	○	交通事故、転倒・転落、溺死・溺水、窒息、火、中毒、自損、加害
3	区民意識調査 区民アンケート SCアンケート	栄区	毎年			区民の意識・行動の変化
4	学校アンケート	栄区	毎年			小学生・中学生の意識・行動の変化
5	警察統計	栄警察署	毎年	○	○	交通事故、犯罪

表2 栄区セーフコミュニティの基本データ

基本データの全体像

区分	0~14歳	15~64歳	65歳~
死亡	1. 人口動態統計		
重症	2. 救急搬送記録 5. 警察統計		
中等症			
軽症			
ヒヤリハット	4. 学校アンケート	3. 区民意識調査・区民アンケート・SCアンケート	

表3 栄区セーフコミュニティ 基本データの全体像

基本データと 8つの分野別分科会との関連

No.	名称	こども	スポー ツ	交通	虐待	高齢	災害	自殺	防犯
1	人口動態統計	○	○	○	○	○	○	○	○
2	救急搬送記録	○	○	○		○		○	
3	区民意識調査 区民アンケート SCアンケート		○				○	○	○
4	学校アンケート	○	○	○					
5	警察統計			○				○	○
6	その他の 独自データ	○ <small>(乳幼児健診時 アンケート等)</small>	○ <small>(分科会へのアン ケート結果等)</small>	○ <small>(道路局のデータ 等)</small>	○ <small>(こども青少年局 のデータ等)</small>		○ <small>(防災白書等)</small>	○ <small>(市民意識調査 等)</small>	○ <small>(市民局のデータ 等)</small>

表4 栄区セーフコミュニティの基本データと8つの分野別分科会との関連

人口動態統計データ — 一年齢階級別死亡順位 —

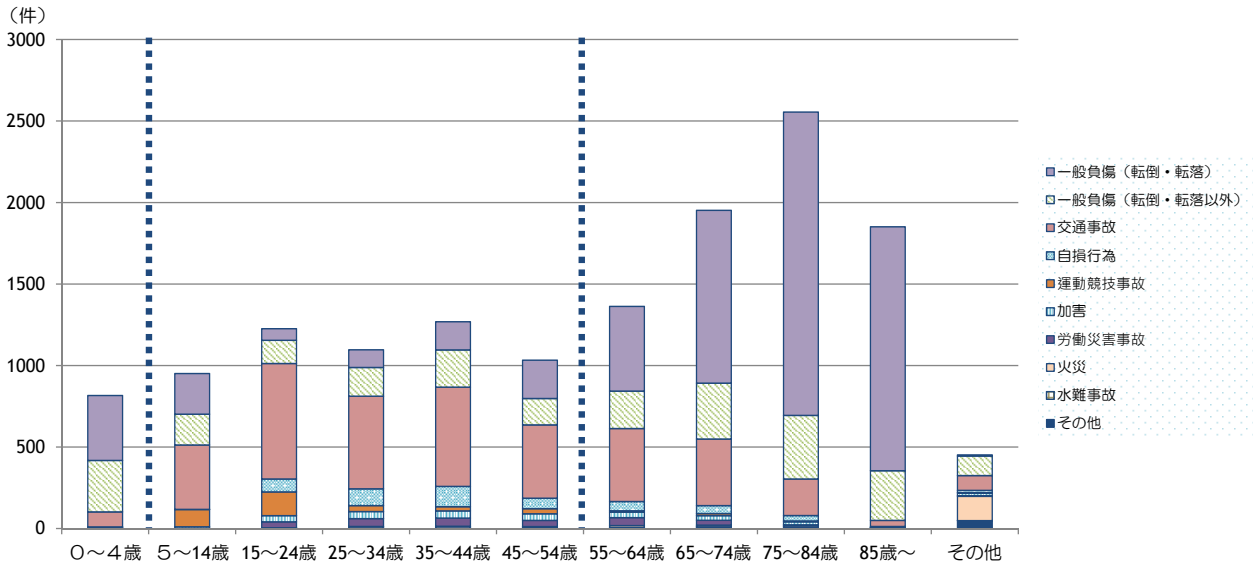
- 0歳～14歳：不慮の窒息、交通事故、溺死・溺水
- 15歳～74歳：自殺
- 75歳以降の後期高齢者：溺死・溺水

	1位	2位	3位	4位	5位
0～4歳	不慮の窒息	—	—	—	—
5～14歳	交通事故、溺死及び溺水		不慮の窒息	—	—
15～24歳	自殺	交通事故	その他	転倒・転落	—
25～34歳	自殺	その他	交通事故	転倒・転落、溺死及び溺水、有害物質	
35～44歳	自殺	その他	交通事故	不慮の窒息	溺死及び溺水
45～54歳	自殺	その他	交通事故	転倒・転落	溺死及び溺水
55～64歳	自殺	その他	溺死及び溺水	交通事故	転倒・転落
65～74歳	自殺	溺死及び溺水	その他	転倒・転落	交通事故、不慮の窒息
75～84歳	溺死及び溺水	その他	転倒・転落	不慮の窒息	自殺
85歳～	溺死及び溺水	不慮の窒息	その他	転倒・転落	交通事故、自殺
全体	自殺	溺死及び溺水	その他	不慮の窒息	転倒・転落

表6 区内の外傷による死亡数
(出典：人口動態統計 2005年～2015年)

救急搬送データ — 一年齢階級別外傷状況 —

- 0歳～4歳の乳幼児及び55歳以上：転倒・転落
- 5歳～54歳：交通事故が第1位



グラフ3 外傷における区内の救急搬送の状況
(出典：救急搬送データ 2006年～2016年速報値)

SCアンケートの新規実施

SCアンケートの実施経緯

2015年まで
外傷に関する定性データ
(ヒヤリハット等)に
ついては
「区民意識調査」
「区民アンケート」
で区民全体の満足や不安、
生活スタイルなどの調査と
ともに収集

より外傷に特化した
詳細な定性データを
収集する必要性

2016年
セーフコミュニティに
特化した定性データ収集
のため、
「セーフコミュニティ
アンケート」
を新規実施
(11月～12月実施)

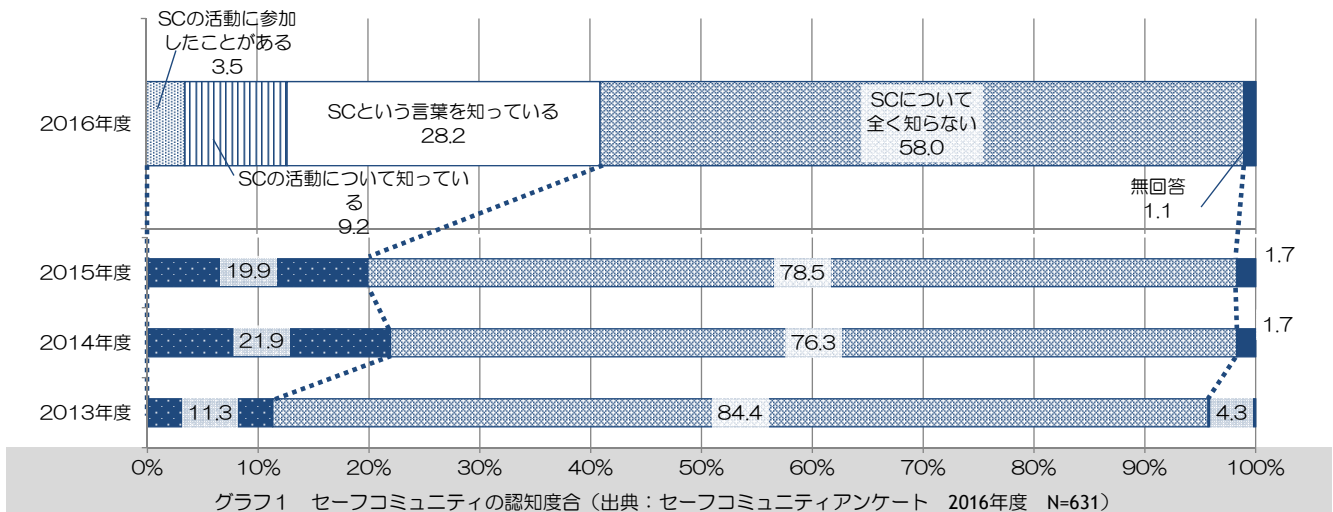
SCアンケートの実施方法

- データ収集方法
 - ・栄区内に居住する20歳以上の区民1,500人を無作為で抽出し、アンケートへの回答を依頼
 - ・無記名、選択式（一部記入式）による回答
 - ・外傷予防のための意識・行動の変化や、ヒヤリハットの経験等を測定し、セーフコミュニティの指標として使用
 - ・設問数：15問、回答者数：631件（回収率42.1%）
- データ分析方法
 - ・単純集計の作成については、業者に委託をして実施
 - ・横浜市健康福祉局衛生研究所にクロス集計を依頼
 - ・事務局でアンケートのまとめを作成

SCアンケート結果

「セーフコミュニティの認知度」

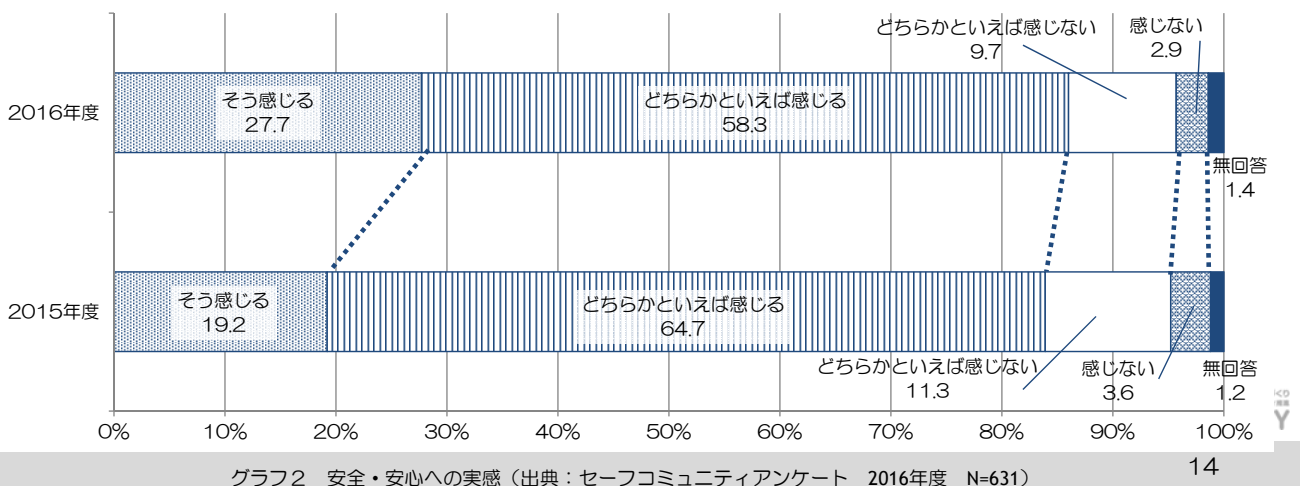
■セーフコミュニティの認知度：4割の区民が何らかの形でSCを認知している
 「活動に参加したことがある」+「活動について知っている」+
 「言葉を知っている」区民
 2015年度：19.9%→2016年度：40.9%



SCアンケート結果

「安全・安心への実感」

■安全・安心への実感
 ：8割以上の区民が栄区を安全・安心なまちだと感じている
 「そう感じる」+「どちらかといえば感じる」を合わせた区民
 2015年度：83.9%→2016年度：86.0%



SCアンケート結果

「重点取組への関心」

■SCの重点取組への関心：交通安全、防犯対策に高い関心が寄せられる一方、スポーツ・余暇時のけが予防、自殺予防対策への関心は比較的低い
 「交通安全」「防犯対策」：70%前後
 「スポーツ・余暇時のけが予防」「自殺予防対策」：20%強

	関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない	無回答
交通安全	70.5	20.9	3.6	1.7	0.5	2.7
防犯対策	69.1	23.1	4.8	0.6	0.3	2.1
災害への備え	66.9	24.9	4.8	1.0	0.5	2.1
こどもの安全	65.9	20.9	5.5	4.1	1.1	2.4
高齢者の安全	58.5	27.9	9.2	2.1	1.0	1.4
子育て支援と児童虐待の防止	49.9	33.0	9.4	3.2	1.6	3.0
自殺予防対策	24.6	30.6	26.8	11.3	3.5	3.3
スポーツ・余暇時のけが予防	23.8	34.4	23.9	11.7	2.7	3.5

表5 セーフコミュニティの重点取組への関心
 (出典：セーフコミュニティアンケート 2016年度、N=631)

15

傷害サーベイランス分科会

- ①データの収集・分析
- ②地域診断
- ③評価指標に基づく専門的評価
- ④効果検証
- ⑤提言

傷害サーベイランス分科会からの 主な指摘事項と各分野別分科会の取組

指摘①

取組の実績（アウトプット）だけではなく、取組の効果（アウトカム）や変化（インパクト）についてどのように評価するのかを重視する必要がある。



各分野別分科会で指標を見直し、取組の実績（アウトプット）重視の指標から効果（アウトカム）や変化（インパクト）重視の指標に変更

指摘②

分科会内の各種団体との連携や、分科会同士の連携をより推進する必要がある。



分野別分科会同士で重なる取組を確認し、連携を模索

17

傷害サーベイランス分科会における実績

データの分析により新たな地域の課題を
明確にすることができた
(高齢者のヒートショック等)



新たな視点からの課題を各分野別分科会に提言することができ、またそれに基づいた予防対策に8つの分野別分科会が取り組むことができている

サーベイランス分科会で各委員の専門的な視点から
取組への評価・助言ができた



サーベイランス分科会の評価・助言と各分野別分科会の取組を通して、地域全体のPDCAサイクルを意識した効果的・効率的な取組ができている

18

今後の方向性

現在の課題

- ① データ分析及び地域診断をより詳細に、専門的に行い、現在よりさらに対象者や取組方法を絞った形で、実効的な取組につなげる必要がある
- ② 現在収集している5種類のデータ以外にも、区内クリニックや共済病院等の医療機関との連携を図り、データを収集することで、外傷データをより精度の高いものにする必要がある



- データ分析について、実務チームを作り新たな体制を組むことにより、精度の向上を図る
- 区内クリニックや共済病院等医療機関との連携の模索
- ヒヤリハットやあまり知られていない外傷に対して、データを集める仕組みを検討する



19

ご清聴ありがとうございました



20